

令和4年度 東京都立大森高等学校 学校経営報告

(全 日 制 課 程)

校 長 青 木 薫

I 目指す学校像

校訓「敬愛・誠実・努力」の校訓のもと、以下の学校を目指し、生徒理解と毅然とした指導で、生徒も教職員も明るく前向きに、「地元の小学生や中学生が憧れる学校」となることを目指し、以下の3点を重視して、全教職員が一丸となって教育活動を行った。

- 1 基本的な生活習慣の確立及びコミュニケーション能力の向上
- 2 自ら学ぶ態度の育成と校内環境の整備・美化
- 3 自他を認め、互いに尊重し協力する態度の育成

II 今年度の取組と自己評価（A：高度に達成，B：おおむね達成，C：もう一歩，D：抜本的改善が必要）

1 教育活動への取組と自己評価

(1) 教育活動全般

目標と方策	取組と学校評価	自己評価
ア 新型コロナウイルス感染症対策と教育活動の両立を図り、学校とオンライン等を活用した教育活動を組み合わせ、「新しい学校生活様式」を定着させて学びの保障を図るとともに、生徒・教員が健康で安全に生活できるための知識をもち、適切な行動をとれるようにする。 イ 生活指導・学習指導・進路指導を一体としてとらえ、始業前、放課後、面接週間及び個別指導重点週間等を活用し、生徒との対話を重視して「わかるまで」「できるまで」粘り強く指導する。 ウ デジタル技術を活用し、学び方・教え方・働き方の転換を図り、教育内容・方法の改善や充実、働き方改革を推進する。	・教育委員会の指針の下、授業時程を新型コロナウイルスまん延以前の通常に戻し、適宜、PCR 検査の励行しながら、教育活動を行い授業時数を確保した。 ・登校時の検温と健康観察を徹底し、「新型コロナウイルス感染症対策大森高校8つのルール」により、感染症対策を徹底した。 ・各学期の始業式や終業式で状況に応じて対面とオンラインを切り替え、各行事では事前に生徒・教職員共に PCR 検査を実施しながらクラスターを起こさず、教育活動を行った。 ・全学年で三者面談の完全実施を目指し、担任は夏季休業終了までに概ねすべての保護者と連絡を取り、家庭との円滑な連携に努めた。	B

(2) 生活指導

生徒に身に付けさせる規律・規範	取組と学校評価	自己評価
ア 公共の場でのルールを守り、社会に通用するマナーを身に付ける イ TPOに応じた身だしなみや所作がきちんとできる ウ 相手の立場を理解し、適切なコミュニケーションがとれる エ 時間を意識して行動することができる オ 準備をして授業に臨み、授業規律を守ることができる カ 教室や校内の清掃に進んで取り組み、意識して校内美化に努めることができる	・HRや学年集会、儀式的行事等を通じて、日ごろからルールやマナーなどTPOに応じた指導をした。 ・特別指導を行う際には、保護者との連携を重視し、スクールカウンセラー（SC）やユースソーシャルワーカー（YSW）との面談も行い、生徒の行動変容を図った。 ・毎日登校時に、身だしなみ指導と健康観察を同時に行い、複数の教員が関わった指導を継続して行った。 「傘さし自転車運転指導」「装飾品指導」は効果が上がった。 ・学年が中心となり、丁寧な遅刻指導を行った。 ・SC、YSW及び都教育委員会と連携し、教育相談体制を強化した（教育支援委員会8回実施）。 【評価】 ・1日のクラス当たりの平均遅刻者数2.7人 ・「授業規律の指導を厳しくしている」生徒肯定的回答	B

	77% ・「身だしなみ指導を十分している」生徒 84.3% ・「生徒は指導に素直に従う」生徒 87%、教職員 61%	
--	--	--

(3) 学習指導

身に付けさせる学習態度・能力	取組と学校評価	自己評価
ア 授業規律を守り、自ら主体的に学ぶ態度 イ 基礎的・基本的な学力の着実な定着と向上 ウ 自ら課題を発見し、解決策を考えるための思考力・判断力・表現力 エ 生涯にわたって学び続けるための、個に応じた学習方法 オ 情報端末を活用し、情報を正しく取捨選択し、自分の学力や興味関心に応じて学びを深める力	・ICT機器や図や写真などの資料を活用した授業を実施し、視覚効果を用い生徒が主体的に参加する授業を行った。 ・年次研修の機会をとらえた研究授業をはじめ、教員相互の授業見学を実施し、「相互授業参観報告書」を活用するなどして授業研究を行った。 ・習熟度別展開授業（数学、英語）や少人数授業（国語、理科、体育、芸術、家庭）を実施し、きめ細かく授業を展開した。 ・全学年全教員によるオンライン授業を実施した。 【評価】 ・「わかりやすい授業」生徒 71%、保護者 48% ・「授業に真剣に取り組んでいる」生徒 80%、教職員 47%	B

(4) 進路指導

身に付けさせる進路意識・能力	取組と学校評価	自己評価
ア 自己を知り、自己の可能性を知り、自己の進路を切り拓く イ 目標に向かって努力し、第一志望をあきらめない ウ 進路希望に応じて補習・講習やインターンシップ等に参加する エ 学習と部活動や学校行事との両立を図りながら、やるべき時にやるべきことができる	・進路分野別ガイダンスの内容を充実させ、多様な分野や受験方法に対応できるようにした。 ・「進路の手引き」「進路ノート」を活用し生徒が主体的に進路を選択することができるようにした。 ・3年生の進路活動状況についてデータベース化し、情報共有を図った。 ・資格取得に向けた指導を行い、40人が資格試験等を受験した。 【評価】 ・「先生は、進路についてよく面倒を見てくれる」生徒 82%、保護者 69% ・「大森高校の進路指導は役に立っている」生徒 72%、保護者 49%	B

(5) 特別活動・部活動

身に付けさせる資質・能力・態度	取組と学校評価	自己評価
ア 積極的に取り組み、困難にも負けずに努力し、達成しようとする態度 イ 自己の興味・関心に応じて文化・スポーツを楽しむ態度 ウ 仲間と協力したり、困っている人を助けたりしながらお互いの立場を認めあい、社会に貢献しようとする態度	・各学校行事の前にPCR検査を実施しながら、1学期の体育祭や2学期の文化祭と2年生修学旅行、3学期のマラソン大会等、感染症対策を行いながら成功させた。 ・生徒会や部活動の生徒が、学校説明会時に誘導や校内案内等で活躍した。 ・地域のイベントにダンス部が参加し、全国総合文化祭東京大会開会式において華道部が装飾するなど徐々にお祭りや催しに参加するようになった。 【評価】 ・「部活動を通して成長している」生徒 65%、保護者 67%、教職員 72% ・「HR・学校行事で楽しく活動、成長している」生徒 80%、保護者 82%、教職員 83%	B

(6) 募集・広報活動

目標と方策	取組と学校評価	自己評価
【目標】本校の教育活動に対する理解を促進し、生徒・教員が生き生きと活動する姿を広く情報発信し、地域に選ばれる学校を目指す。 【方策】 ア 中学校等を効率的に訪問し、本校の特色ある教育活動をPRする。 イ 動画の活用やオンラインによる説明会等デジタル技術を活用した広報を展開する。 ウ 学校説明会を年間3回、夏季休業中に学校見学会及び部活動体験会を実施し、生徒の活躍する姿をPRする。合同説明会に年間2回参加する。 エ ホームページや校内外の掲示板を適宜更新し、適時情報発信する。 オ 大田区等の公立中学校への出前授業を計画的に実施する。 カ 文化・スポーツ等特別推薦を実施し、学校の特色化を一層図る。	・大田区 28 校、品川区 15 校、世田谷区 10 校、目黒区 7 校、墨田区、江東区、港区それぞれ 1 校の、計 63 校を訪問した。 ・7 月から 12 月まで学校個別見学会（週 2 回、組数限定）を行い、167 人参加。 ・学校説明会（11、12、1 月）は、web 申込制度の導入、座席指定や 2 会場での実施などの工夫に加え、個別ファイルの作成、大会場へのモニター設置を行い、第 1 回 61 組、第 2 回 45 組、第 3 回 13 組、計 119 人が参加した。 ・部活動体験・見学会に 24 人参加した。 ・都主催等の合同説明会 4 回に 156 人の参加。 ・ホームページ更新 180 回、掲示板更新 20 回により、情報発信した。 ・蓮沼中学校との相互授業参観を行った。	C

(7) 学校経営・組織体制

目標と方策	取組と学校評価	自己評価
ア 学校経営計画・分掌組織目標に基づき組織的に課題解決を図る。 イ 企画調整会議を週 1 回、職員会議月 1 回行い、円滑な学校運営を行う。 ウ 校務の手引きを活用し、教職員の共通認識のもと教育活動を行う。 エ 教育公務員としての使命と職責の重さを自覚し、服務規律を徹底する。 オ 定時退庁日を月 1 日設定、年間 15 日の年休取得を目標とし、教職員の心身の健康を増進する。 カ 創立 80 周年にむけ、これまでの取組を検証するとともに、記念誌等の作成について検討する。 キ 経営企画室機能を最大限活用し、安心・安全で快適な教育環境を保障する。 ク 地域住民への施設開放や公開講座を通して教育資産を活用する。	・自己申告面接において、学校経営計画に則した目標や取組を明確に意識させ、組織的な教育活動を実践した。 ・企画調整会議と職員会議の議題や資料をデータ化し、業務の効率化・情報の共有化を図った。 ・個人情報紛失を防ぐため、定期考査期間中及び答案返却完了まではシュレッダーの使用を禁止した。 ・新型コロナウイルス感染症のため、施設開放や公開講座は縮小または中止となった。 ・電子起案率の向上に努め、業務の効率化とデータの共有化を行い、電子起案率 100%を継続している。 ・80 周年の検討委員会を設置し、PTA、同窓会との協力を得て、PTA より体育館の演台エンブレム、同窓会より垂れ幕と横断幕の寄贈を受ける。記念誌の準備も進行中。 ・教職員のメンタルヘルス向上のために、東京都の臨床心理士の派遣による個別面談を年 3 回実施。 ・教職員の夏季休暇完全取得率 100%、年休取得 15 日以上の割合 58%	B

2 重点目標への取組と自己評価

- (1) 教科主任を中心に各教科で指導目標を定め、各教科における授業研究や教材の共有化、Teams を活用したオンライン学習について研究・検討し、教員相互の授業参観を実施するなど、授業改善に取り組んだ。

(2) 長期休業中及び個別指導重点週間に計画的に補習・講習を実施し、基礎学力の定着・向上を図る。

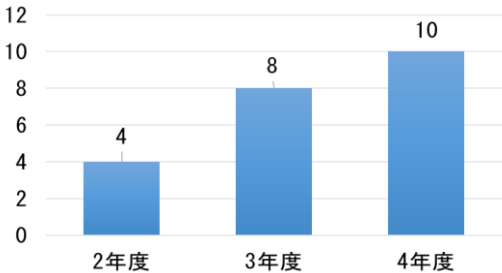
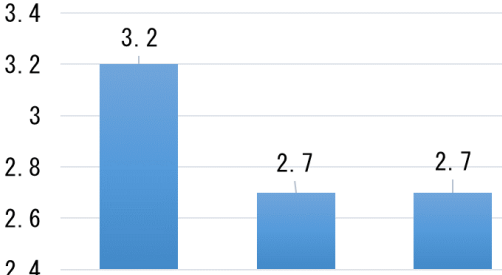
基礎・進学講座の実施、受講者数の増加	数値目標	実績	取組と自己評価										
<table><caption>基礎・進学講座の実施、受講者数の増加</caption><thead><tr><th>年度</th><th>受講者数</th></tr></thead><tbody><tr><td>元年度</td><td>345</td></tr><tr><td>2年度</td><td>47</td></tr><tr><td>3年度</td><td>130</td></tr><tr><td>4年度</td><td>123</td></tr></tbody></table>	年度	受講者数	元年度	345	2年度	47	3年度	130	4年度	123	20 講座 300 人	13 講座 123 人	・教員からの働きかけによる受講が多く、生徒の主体性を育成することが必要である。 ・定期考査前や個別指導重点期間において、生徒の学習到達度に応じた補習を行っているが、受講者の増加に結びつかなかった。一方で進学を念頭に、講習を依頼してくる生徒も出てきた。 【自己評価】C
年度	受講者数												
元年度	345												
2年度	47												
3年度	130												
4年度	123												

(3) 3年間を見通したキャリア教育を計画的に実施し、生徒に応じた丁寧な指導を行い、生徒に主体的に進路を選択・決定させる。

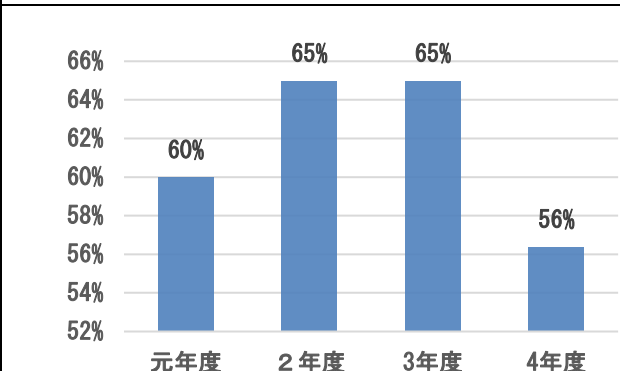
進路未決定率の減少	数値目標	実績	取組と自己評価										
<table><caption>進路未決定率の減少</caption><thead><tr><th>年度</th><th>進路未決定率</th></tr></thead><tbody><tr><td>元年度</td><td>13.7%</td></tr><tr><td>2年度</td><td>12.7%</td></tr><tr><td>3年度</td><td>13.3%</td></tr><tr><td>4年度</td><td>17.3%</td></tr></tbody></table>	年度	進路未決定率	元年度	13.7%	2年度	12.7%	3年度	13.3%	4年度	17.3%	10% 以下	17.3%	・「進路の手引き」「進路ノート」の内容を見直し、生徒が主体的に進路を選択することができるよう活用を図った。 ・進路指導部、学年、管理職による面接指導を計画的に実施した。 ・保育実習を行い、生徒が目標をもって進路活動を行えるようにした。
年度	進路未決定率												
元年度	13.7%												
2年度	12.7%												
3年度	13.3%												
4年度	17.3%												
検定・資格取得に挑戦	数値目標	実績	取組と自己評価										
<table><caption>検定・資格取得に挑戦</caption><thead><tr><th>年度</th><th>人数</th></tr></thead><tbody><tr><td>2年度</td><td>49</td></tr><tr><td>3年度</td><td>56</td></tr><tr><td>4年度</td><td>40</td></tr></tbody></table>	年度	人数	2年度	49	3年度	56	4年度	40	75 人	40 人	・今年度は指定校推薦入試に加え、A0 入試の指導を細かく行った結果、大学進学希望者は全員決定した。進路未決定数の減少が引き続き課題である。 ・英検、漢検、日本語能力検定試験に挑戦した。 【自己評価】C		
年度	人数												
2年度	49												
3年度	56												
4年度	40												

(4) 厳しくも温かい生徒指導を行い、生徒の規範意識を醸成するとともに、教育相談体制を充実させ、生徒の中途退学を防止する。

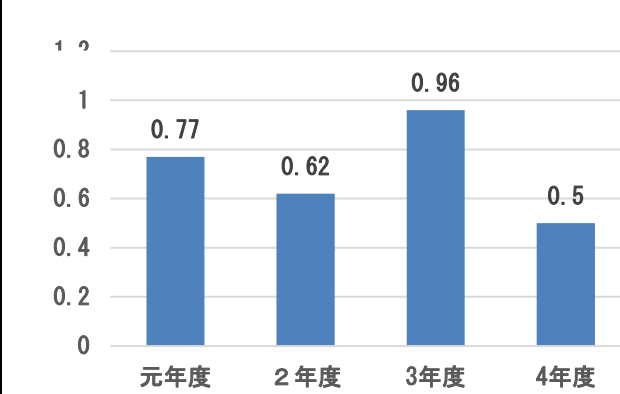
中途退学者数の減少	数値目標	実績	取組と自己評価															
中途退学者の数 <table><thead><tr><th>年度</th><th>退学者数</th><th>退学者率</th></tr></thead><tbody><tr><td>元年度</td><td>34人</td><td>4.20%</td></tr><tr><td>2年度</td><td>22人</td><td>5.60%</td></tr><tr><td>3年度</td><td>19人</td><td>4.00%</td></tr><tr><td>4年度</td><td>21人</td><td>4.60%</td></tr></tbody></table>	年度	退学者数	退学者率	元年度	34人	4.20%	2年度	22人	5.60%	3年度	19人	4.00%	4年度	21人	4.60%	15 人 以下	21 人	・全学年で三者面談の完全実施を目指し、担任は夏季休業終了までに概ねすべての保護者と連絡を取り、家庭との円滑な連携に努めた。 ・特別指導では、教員だけでなくスクールカウンセラーやユースソーシャルワーカーとの面談を行う
年度	退学者数	退学者率																
元年度	34人	4.20%																
2年度	22人	5.60%																
3年度	19人	4.00%																
4年度	21人	4.60%																

教育支援委員会の開催	数値目標	実績	など、多くの関りをもちながら指導を進めた。 ・スクールカウンセラーへの相談回数生徒 127 回、保護者 22 回。 ・ユースソーシャルワーカーの対応人数延べ 38 人、面談回数 117 回、対応回数 183 回。 ・スクールカウンセラーやユースソーシャルワーカーとの連携を強化し、昨年度より教育相談体制の充実を図り、支援委員会も回数は増え、退学者数について、目標を達成できた。 ・コロナ禍前の始業時間に戻したが、遅刻は昨年度と同じであった。 【自己評価】B								
 <table><caption>教育支援委員会の開催</caption><thead><tr><th>年度</th><th>回数</th></tr></thead><tbody><tr><td>2年度</td><td>4</td></tr><tr><td>3年度</td><td>8</td></tr><tr><td>4年度</td><td>10</td></tr></tbody></table>	年度	回数		2年度	4	3年度	8	4年度	10	10 回	10 回
年度	回数										
2年度	4										
3年度	8										
4年度	10										
1 日のクラス当たりの遅刻者数（平均）	数値目標	実績									
 <table><caption>1 日のクラス当たりの遅刻者数（平均）</caption><thead><tr><th>年度</th><th>遅刻者数（平均）</th></tr></thead><tbody><tr><td>2年度</td><td>3.2</td></tr><tr><td>3年度</td><td>2.7</td></tr><tr><td>4年度</td><td>2.7</td></tr></tbody></table>	年度	遅刻者数（平均）	2年度	3.2	3年度	2.7	4年度	2.7	2.5 人	2.7 人	
年度	遅刻者数（平均）										
2年度	3.2										
3年度	2.7										
4年度	2.7										

（５）学校行事、部活動を活性化し、成就感や達成感を体得させる。

部活動加入率の向上	数値目標	実績	取組と自己評価										
 <table><caption>部活動加入率の向上</caption><tr><th>年度</th><th>加入率</th></tr><tr><td>元年度</td><td>60%</td></tr><tr><td>2年度</td><td>65%</td></tr><tr><td>3年度</td><td>65%</td></tr><tr><td>4年度</td><td>56%</td></tr></table>	年度	加入率	元年度	60%	2年度	65%	3年度	65%	4年度	56%	70% 以上	56%	・実施方法を工夫し、事前のPCR検査をして、学校行事を充実させた。 ・地域行事や高体連・高文連等の大会に参加し、成果発表の機会を広げた。 ・活性化や充実を図ったが、加入率の増加には至らなかった。 【自己評価】 C
年度	加入率												
元年度	60%												
2年度	65%												
3年度	65%												
4年度	56%												

（６）ホームページや学校訪問、学校説明会の機会を通じ、教員・生徒の生き生きとした姿をPRすることで、本校を第一希望とする生徒を増加させる。

入選一次応募倍率の向上	数値目標	実績	取組と自己評価										
 <table><caption>入選一次応募倍率の向上</caption><tr><th>年度</th><th>倍率</th></tr><tr><td>元年度</td><td>0.77</td></tr><tr><td>2年度</td><td>0.62</td></tr><tr><td>3年度</td><td>0.96</td></tr><tr><td>4年度</td><td>0.5</td></tr></table>	年度	倍率	元年度	0.77	2年度	0.62	3年度	0.96	4年度	0.5	1.0 倍 以上	0.48 倍	・HPは写真を多用し、わかりやすさを重視して、見やすいものとした。 ・学校説明会での個別対応重視など、昨年度改善したことを継続したが、本校への来校者が昨年度より減少した。 ・定期的な出前授業や学校訪問の拡大など、更なる工夫が必要である。 【自己評価】 C
年度	倍率												
元年度	0.77												
2年度	0.62												
3年度	0.96												
4年度	0.5												

（７）服務事故防止研修を２回実施した。定期考査中のシュレッダー禁止等、服務事故の防止に組織的に取り組んだ。

Ⅲ 次年度の主な課題と改善策

(1) 中途退学防止

生徒に高等学校で学ぶ意義を理解させ、主体的に学校生活に取り組ませることが課題である。今年は、コロナ禍前の状態に戻すべく PCR 検査を励行しながら各行事を行っていたが、まだまだ生徒の中には、漠然とした不安や気力の減退が生じる生徒が少なからずいた。生活指導、学習指導、進路指導を一層関連付け、全教職員がそれぞれの場面で丁寧かつ諦めない指導に取り組んでいく。また、外部機関とも連携して教育相談体制の一層の強化を図り、悩みを抱えている生徒の早期発見と課題解決に努める。

(2) 学習指導

学力に不安を感じている生徒や学習に取り組む姿勢が不十分な生徒にも「わかるまで」「できるまで」取り組ませる粘り強い指導を行っていく。そのために、教員間で授業における悩みや成果を上げた取組などについて共有化し、学校としての総合的授業力の向上が次年度の課題である。

若手教員の研修や外部講師を招いた研修などを一層充実させるとともに、中学校段階での学習状況の把握、ICT を更に活用した授業展開等の授業改善や、一人1台端末を活用した授業展開について研究を行っていく。

(3) 生活指導・特別活動

身だしなみ指導に対する意識は、多くの生徒には浸透してきているが、生徒同士の話し合いを通して各々が自らその意味を理解し、行動することができる段階にまでしていくことが課題である。生徒会役員や部長会等でのリーダー育成により、主体性を高めていく。また、保護者会や三者面談をとおして保護者にも引き続き指導に対する理解を求め、家庭と連携した指導を行っていく。

(4) 進路指導

昨年度よりは若干改善したものの、本校進路指導に対し保護者は厳しい評価であり、生徒への丁寧な指導を進めるとともに家庭との一層の連携が課題である。「人間と社会」や「進路の手引き」・「進路ノート」を活用した進路ガイダンス等、校内では一定の指導体制が整っているので、資料配布による家庭連絡に加え、日頃の家庭との連絡はもちろん保護者会や三者面談を更に充実させ、家庭との連携を図っていく。

(5) 募集・広報活動

入試推薦倍率、学力一次倍率共に昨年度からは大幅に下落した。この要因をしっかりと分析した上で、今後の募集対策に反映することが大きな課題である。教育活動の一層の充実とその情報発信により、地域の期待に応える学校としての役割を果たす。

(6) 学校経営・組織体制、その他

教職員の心身の健康の維持向上及び働きやすい職場づくりに努め、全教職員の経営参画意識を高めて組織的に課題解決を図る。80周年を契機とした新しい提案や改善に積極的に取り組み活力ある職場風土を醸成する。